

B16 細胞メラニン産生抑制試験

マウス B16 メラノーマ細胞は、日焼けやシミの原因で知られるメラニンを産生する特徴を有しております。この B16 細胞を用いて、細胞の通常培養によるメラニン産生と、 α -メラノサイト刺激ホルモン(α -MSH)刺激を介した過剰産生系によるメラニン産生の 2 条件でメラニン産生に対する作用を調べます。

試験方法

B16 細胞に試験液を添加して培養した後、細胞から抽出したメラニンを測定致します。未処置対照のメラニン産生量に対する検体添加時のメラニン産生量から、相対値としてメラニン産生率を算出致します。

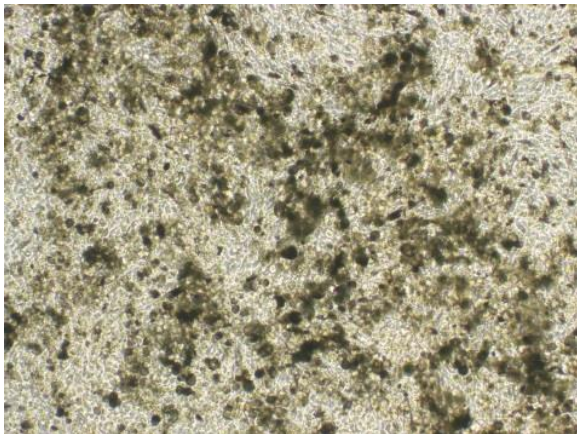


図-1 B16 細胞

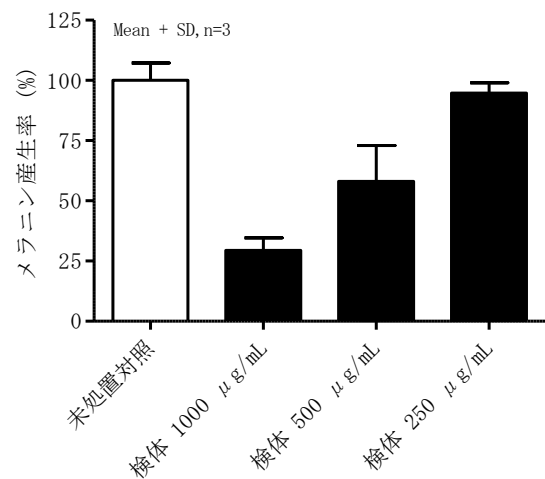


図-2 試験結果例

検体必要量

必要量：約 10 g (10 g 未満の場合はお問い合わせください。)

注意点

水に不溶の検体は試験をお受け出来ない場合がございます。また、いずれも検体数や検体の性状などにより変動致しますので、まずはお問い合わせください。

試験設計など、詳細につきましてもお気軽にご相談ください。